

うん、いいね

B 児

A 児



②

② 保育者「広い所でやってみる？」  
A 児「外はマット濡れちゃうね」  
保育者「濡れないもの考える？」  
A 児「段ボールがいいかなあ？」  
B 児「こういう感じでどう？」



10の姿いせん

①

① A児たちは大型積み木の坂道で  
タオルマットを滑らせて遊んでい  
ました。近頃、遊びが停滞気味  
だったA児の好奇心の広がりをも、  
保育者はそっと期待します。

3、2、1で  
押すよ！せーの

あれ？止まっ  
ちやったね

段ボール  
壊れたね

重いから？  
人減らす？



③

# 子どもの姿で捉える 充実感

「幼児期の育ちが、  
小学校の学習にどの  
ようにつながるのか  
がよく分からない」  
と感じている方は、  
少なくないのもし  
れません。まさに、  
見えにくい幼児教育  
の成果を、幼小の関  
係者が共に捉えてい  
く過程は、架け橋ブ  
ログラムの肝となる  
取組みですし、その

際に、手掛かりとし  
てうまく活用したい  
のが「幼児期の終わ  
りまでに育つてほし  
い姿（10の姿）」で  
す。本事例の子ども  
たちは、あと数日で  
入学式を迎える年長  
児です。この子たち  
の遊びが進展してい  
くプロセスを、例え  
ば10の姿（1）健康な  
心と体（充実感をも

③ 1時間ほどかけて完成。「よし、  
できた！行くぞー」勢いよく駆け出  
すA児たち。製作に関わった友達も、  
周りで興味津々に様子を伺っていた  
友達も、向かうは雪の山！（④）



段ボールって  
結構弱いね

みんな！  
作り直すぞ！

④

つて自分のやりたいこ  
とに向かっで心と体を  
十分に働かせ、見通し  
をもつて行動し、自ら  
健康で安全な生活をつ  
くり出すようになる」  
の視点で捉えていくと、  
どうでしょう。

最近のA児は決まっ  
た場所に決まったメン  
バーで集い、いつも同  
じ遊びを繰り返す日々  
で、夢中になつて遊ぶ  
様子があり見られま  
せんでした。「一年生  
になる前に、何か熱中  
できる出会いがあるこ  
とがいいな」と保育者も機  
会を伺っていました。

ある日の朝、積み木で  
つくった坂道にタオル  
マットを敷き、友達と  
楽しそうにそり遊びを  
するA児がいました。

しかし、限られた空間  
のためA児たちはすぐ  
に物足りなくなります。  
きつと、「みんなで滑  
る」という面白さを、  
もつと味わい、もつと  
面白くしたいはず。そ  
う見取った保育者は、  
A児たちに声をかけま  
す（写真②）。遊びは  
どんどん進展し、そり  
は本当に完成。雪上で  
試すことになりました  
（写真④）。まだまだ  
満足しないA児たちは、  
あれやこれやとさらに  
大忙し。その改良と  
試滑走に明け暮れたの

でした。  
さて、5歳児の「充  
実感」とはどんな姿と  
言えるでしょう。「自  
分のやりたいことに向  
かう」という育ちは、  
例えばA児のどんな姿  
から感じ取ることがで  
きるでしょう。そして、  
その姿を支えていたも  
のとは、どんなことと  
言えるでしょうか。

このように10の姿を  
ヒントとしながら、具  
体的な姿について協議  
していくことで、今育  
ちつつあることで、架け  
橋期に育んでいきたい  
こと等を、幼小で共有  
していくことができま  
す。写真やエピソード  
等で多種多様な姿を蓄  
積していけば、同僚、  
保護者、他園や小学校  
等とも参照し合える、  
貴重な資料にもなるで  
しょう。10の姿には、  
文字通り幼児の育ちの  
姿が示してありますが、  
その姿をどう育み、ど  
うつなぐかは、実践者  
に委ねられています。  
10の姿が発揮されやす  
い環境について、幼小  
それぞれに、再考して  
いくことが求められて  
います。架け橋プログ  
ラムは、幼小双方の教  
育の質をより高め、改  
善していくための方向  
性について、確認し合  
う取組みなのです。

